

NPO法人 みんなの食堂こむすび舎めいわ町

地域の子どもから高齢者まで誰もがともに遊び・学び・笑いあえる場づくりをめざす「NPO法人 みんなの食堂こむすび舎めいわ町」(多気郡明和町)。地域のつながりが薄れつつある時代に、学校や社会福祉協議会、地元の企業などと一緒に、地域ぐるみで居場所づくりに取り組んでいます。



代表 山路 由香さん

お問い合わせ

「NPO法人 みんなの食堂
こむすび舎めいわ町」
多気郡明和町斎宮 938-9
TEL 080-4223-1660

放課後の小学校の運動場で焼き芋のおいしそうなお匂いが漂い、子どもたちのワイワイ楽しそうな声が響きます。地域の高齢者なども一緒に楽しみ、自然と笑顔があふれています。そんな「居場所づくり」の活動について代表の山路 由香さんに伺いました。

—活動のはじまりは？—

山路：令和元(2019)年6月、前代表が高齢者や子どもたちのつどいの場づくりをしたいと「つどい子ども食堂」をはじめました。外で遊ぶ子どもをみかける機会が減り、子どもと地域とつながる場をつくりたいという思いがきっかけです。

けでした。しかし活動拠点の建物の老朽化やコロナ禍での対面活動の休止に伴い、時代の変化に合わせて活動を見直し。令和4年1月に活動や名称を変更して法人化しました。現在は町内外の20名程度が活動しています。

—法人名の由来は？—

山路：おむすびって米粒がぎゅっと集まり、味や形も色々ですよ。子どもを中心としておにぎりのように色んな人が集い、縁を結べるように、という思いで、みんなで話し合っって名付けました。

—どんな活動をされていますか？—

山路：子どもたち、保護者、地域住民に対して、食事やイベントを通じて「居場所」と「活躍の場」を提供する事業に取り組んでいます。

組んでいます。

—具体的には？—

山路：月1回、日曜に開催する定期開催イベントでは、手づくりの特製カレーを大人300円、子どもは無料と誰もが参加しやすい低価格で提供しています。また地域の人の得意を活かした手品ショーや縁日、普段家庭ではできないような工作などの遊びを提供しています。食材班とイベント班に分かれ、その時期に合わせた内容を企画しています。

—他にはどんな活動がありますか？—

山路：毎週水曜は小学校が早く終わるので「放課後開放デー」として、学校横にある会館をお借りし、学校帰りにふらつと立ち寄り、友達と一緒に宿題をしたり、

遊んだりできる居場所をつくっています。地域のお年寄りと一緒に認知症について学んだり、焼き芋をしたり...と学校ではできない経験を提供しています。毎回、色々な学年の子どもが20名程度訪れ子どもはもちろん、地域のお年寄りにとっても安心して過ごせる憩いの場になっています。

—フードドライブやフードパントリーの活動もされていますね。

山路：毎週火・木曜の午前中に事務所でのフードパントリーの受け入れをしています。食品や日用品のほか、地元のおいしい野菜やおばあちゃんが新鮮な野菜や米を持ってきていただくこともあります。日用品は定期開催イベントで子育て応援のために無料配布したり、食材は「放課後開放デー」や社会福祉

デー」や社会福祉



「放課後開放デー」



アナログゲームで遊ぶ子どもたち



地域の人と一緒に焼き芋体験



フードパントリーの活動※

協議会とともに取り組む「OBENTOプロジェクト」で活用したりしています。

—「OBENTOプロジェクト」は？—

山路：コロナ禍で活動ができなかったときに「何か私たちにできることはないか」と社会福祉協議会に相談し「生活に困っている家庭が多い」という課題を知りました。そこで障害福祉サービス等指定事業所が運営するカフェと連携し、コロナ禍で経済的な影響を受けている家庭に週2回手作り弁当を無償提供する活動をはじめました。現在も約25世帯に届けています。

—今後の展開は？—

—「地域ぐるみ」「つながり」をとても大事にされる活動がこれからも広がり、続くといいですね。

インタビュー... 中川 絵美子

* 家庭で余っている食品を集め、生活困窮者や福祉施設など必要とする人に寄付する活動。